

# 瓦の未来を考える

## 2018年 新春特別寄稿

### 民家再生に取り組む 建築家・藤岡龍介氏

新号号では、民家再生に力を注ぐ建築家、藤岡龍介氏の特別寄稿を連載でお届けする。

題して「日本の民家と屋根、そして瓦の未来を考える」。

①

「文化財の宝庫」奈良で生まれ育った同氏は伝統的な民家を持っている空間構成や技術、意匠などの魅力を最大限に活かして現代に継承している。民家再生で瓦は欠かせない建築材料だが、同氏は「メンテナンスが容易で、長く使い続けることのできる優秀な材料」と瓦を高く評価している。



①堀内家住宅。松本へ移り、信州の民家「本棟造り」の建物を見て衝撃を受けた



②東大阪の民家。築約150年の元紺屋の再生

## 瓦はメンテナンスが容易で優秀な材料

その頃の奈良町は町家も多く残り、軒が連なり鈍い黒色のさまざまな色合いの屋根瓦の建物が立ち並んでいました。外へ自転車で遊びに行った時は、興福寺のゴーン!!!と鳴り響く鐘を合図に家路を急いだものでした。

気候風土を考慮した、木造住宅の新築や民家の改修設計に関わらせていただきました。

松本に移って間もない頃、信州の代表的な本棟造りの民家であり重要な文化財でもある堀内家住宅(写真①)に接し衝撃を受けました。北アルプスの山々をバックに鷹が大地に羽根を広げて降り立ったような姿をした妻入りの建物でした。屋根は板葺き石置屋根の緩勾配で、棟には雀踊りという大きな棟飾りを持ち、正面の庇も同じものが葺かれていました。

ケラバ側の軒は非常に深く柱や貫の木割りは太く、庇下が板壁で上部が漆喰壁となっていました。織りひりを感じました。織りひりを感じました。織りひりを感じました。

塩尻から東南に峠を越すと岡谷から諏訪に道は抜けて行きます。切妻造りで3階建ての生系倉庫であった大型の土蔵が何棟も建ち、明治期の生系での繁栄を表しています。諏訪では鉄平石の産出により、民家をはじめ門や蔵の屋根も石葺きでした。ほんの近くでありながら、民家や建物にそれぞれの特徴があるものだと改めて感じました。

故郷を思い、信州のよいうに町家や民家を今の時代に生かし、次の時代へとつないでいくような設計活動を少しずつ始めていきたいと思うようになりました。

昭和60年に奈良へ戻ってまず感じたことは、町家や民家ほとんど消滅しているという現実でした。近代建築である県公

## 奈良に生まれ、育つ

### 興福寺の鐘の音で家路へ

■奈良に生まれ育って  
私は奈良市に生まれ、育ちました。東大寺、興福寺、元興寺や春日大社など、世界遺産も存在する旧奈良町です。国宝、重要文化財などの建造物が数多くある町です。町家などの未指定文化財を入れれば、文化財の宝庫ともいえる町です。

たようです。また、建物はそのままで、屋根だけ小屋組から組み替えて、茅葺きから瓦へ葺き替えていった例も数多くあったようです。

■信州の民家  
大学の建築史研究室を卒業後、東京で5年間、現代和風や現代数寄屋などの建築に携わり、都内や地方都市に建てられる住宅や料亭などの現場監督を行ってききました。そこでは大きく捉えた構成美から、納まりまで、きめ細やかな配慮のなかで建築を造り上げていました。

その後は、長野県松本で民家再生の第一人者、降幡廣信先生のもと地域の

も南東の外れに位置し、出格子や瓦葺きの町家の形をした農家でした。一般的に江戸末期までに建てられた農家は、草屋根の茅葺きであったようですが、近代に入り建物を

わが家の斜め向かいには、江戸後期頃に建てられたと思われる奈良格子の付く平屋建て二軒長屋(空家)がありました。当時は地道(舗装していない道路)で道からの埃

その頃、奈良町は町家も多く残り、軒が連なり鈍い黒色のさまざまな色合いの屋根瓦の建物が立ち並んでいました。

私はその頃、明治23年に大和郡山の町家を建てた時のことを記した普請帳を見る機会がありました。幸いにもその時代の人々がどのような思いで建てたかを知ることができました。そこには、砂利や柱材一つを取っても細かな仕様があげられ、天井板、野地板、造作材などのあらゆる材をどこからどれ位の数量を調達したかが克明に記



藤岡龍介氏  
藤岡建築研究室(奈良市)主宰。1952年奈良県生まれ。2002~2007年近畿大学非常勤講師、2009年~京都市文化財(建造物)保存・活用マネージャー養成講座講師。(公社)日本建築家協会/NPO法人「古材文化の会」/NPO法人「木の建築フォーラム」/なら・町家研究会所属。受賞歴、研究、論文、報告書多数。  
著書に「住み継ぐ/藤岡建築研究室の改修・再生と新築」(建築資料研究社)など。

その後、長野県松本で民家再生の第一人者、降幡廣信先生のもと地域の

昭和60年に奈良へ戻ってまず感じたことは、町家や民家ほとんど消滅しているという現実でした。近代建築である県公